

県指定文化財<有形民俗>

きくちまつばやしのおば 菊池松囃子能場

指定日 昭和50年7月31日

所在地 菊池市隈府 上町



菊池の松囃子を演じる能舞台とその周辺は「能場」と呼ばれている。能場は菊池神社一の鳥居から西方約100mのところ、菊池高校の正門横にあり、能舞台は征西將軍宮せいせい懐良親王のお手植えと伝えられるむく棕の大木・・・將軍木に向かって建てられている。

寛政7年(1795)の記録では、以前からあった能舞台が焼失して以降、元文3年(1738)に取り畳み式(組立式)の仮舞台になっていたが、これも50年以上経過し危険になったので定舞台を建てさせて欲しいと藩主細川氏に願い出ている。時節柄大変悪い時期ではあったが、翌年舞台は建てられた。その後、明治43年に現在地に改築された。

本舞台は、4本柱(シテ柱、目付柱、ワキ柱、笛柱)に囲まれた三間四方といわれる正方形の部分(この舞台は縮小され、やや狭い)で演技される。床下には音響効果のためかめ甕が置かれている。